

甲状腺外科草子 35

鈴木貫太郎総理 終の住処

杉野 圭三

鈴木貫太郎内閣辞職

昭和 20 年 8 月 15 日、鈴木貫太郎内閣は総辞職したが、東久邇宮内閣成立の 8 月 17 日まで職務を継続した。

首相退任後の動向

同 9 月に郷里・千葉県関宿町（現・野田市）に一時滞在、12 月枢密院議長に再度就任、翌年 1 月、昭和天皇から御紋付木盃並びに酒肴料を下賜、宮中杖の携行を許された。同 6 月枢密院議長を辞職し関宿町に帰り、隠棲したが、昭和 23 年 4 月 17 日、肝臓癌のため死去、享年 81 歳。最後の言葉は「とわ（永遠）の平和、とわの平和」であったという。昭和 35 年 8 月 15 日に、従一位を贈位された。

関宿訪問

千葉県の関宿（野田市）の鈴木貫太郎記念館は現在、耐震状況の問題などで休館中だが、見学可能なため訪問することとした。



記念館

貫太郎とタカ夫人

交通アクセスは、東部鉄道やバスを乗り継ぐ極めて不便なものであった。



記念館の「為萬世開太平」（自筆）と石碑（吉田茂）

記念館の前にはシンボルとして「為萬世開太平」の塔がある。昭和天皇の終戦の詔「万世ノ為ニ太平ヲ開カムト欲ス」による

ものである。近くには「鈴木貫太郎翁終焉の地」の石碑があり見えにくい字だが、よく見ると吉田茂謹書と書かれてあった。

また、庭にある記念館のプレートの題字は迫水久常氏（当時内閣書記官長）のものである。



記念館石碑 迫水久常氏による題字

記念館のホームページにはこれらの石碑の題字について記載されていなかったが、戦前・戦後の重要な政治家たちが鈴木貫太郎の功績を高く評価していたことが良く分かるものである。

野田市にある郷土博物館にも貫太郎の貴重な資料が展示されていた。珍しいものでは日本海海戦で貫太郎が第四駆逐隊司令として指揮を取った駆逐艦「朝霧」の写真（絵葉書）を初めて見る事ができた。



朝霧の絵葉書（珍品！） 村雨（第四駆逐隊の僚艦）

また、依願免本官（辞職願の許可）の辞令書や海軍兵学校時代の成績表も展示され、第 13 番目の順位であった。

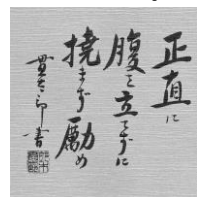


依願免本官

海軍兵学校の成績表

内閣総理大臣任命時の辞令書は残念ながら、行方不明で、戦災で焼失されたいらしい。

日露戦争、二・二六事件、太平洋戦争終結まで国の為に全てを捧げた偉大なる軍人、政治家の足跡を辿った。



（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2022 年 7 月 14 日